弔辞

高橋さん

我々教師の間では同僚でも先生を附けて呼び合ふ風がありますがあなたは同じ大学の九期先輩の私にも滅多に先生は附けなかつた　だから私も今日は高橋さんと呼び掛けます

高橋さん

あなたが札幌大学と縁を生じたのは慥か昭和四十八年の秋でした　女子短期大学部の国文科*に国語学専攻の専任教員を入れようといふことになりあなたと私の共通の母校国学院大学に優秀な若手の推薦を依頼したところ上つて来た名前が高橋伸幸でした　その話はしかし北大文学部の停年間近の方と競ふ形になりその方に予備校で習つたといふあなたが僅かそれだけの師弟の縁にこだはつて自ら身を引くことで終つたのですが年が明けて今度は中世文学の担当者の採用人事が持ち上がり再び国学院に問ひ合はせたところ打てば響くやうに返つて来た名前が再びあなたでした

ところでその折に多分あなたの知らなかつた事が一つ　あなたの推薦者である中世文学の教授があなたを評して曰く颯爽たること林の木の間を駈け抜けるバンビ仔鹿の如しと私宛ての私信にありました

仔鹿のバンビといふ比喩はあなたの風貌の印象だけではなかつたらうと思ひます　研究者としてのあなたの疾駆ぶりは専攻分野の違ひ過ぎる私には殆ど云ふ資格がありませんが少なくとも昭和四十九年からつい先日まで札幌大学をあなたは右に左に軽やかに駈け抜けました　木々の間を駈け抜ける仔鹿のしなやかな肢体は雑木の下枝で幾つもの擦り傷切り傷を負つたでせうが同時に仔鹿の蹄に事もなく踏み砕かれた下草の芽もあつたかも知れません　しかしあなたはそれらを仕方のないこととして切り捨ててゐたやうでした

あなた自身の負うた傷の痛みがあなたの成熟をどのやうに促したかを問ふ非礼は差し控へますが学生に関して云へばあなた程数多くの学生に些かも怯むことなく落第点をつけた教師は珍しい　あなたの科目一つのために卒業できず人生設計を修正する学生は毎年跡を絶ちませんでした

しかし又その一方でさうした者も含めてあなた程さながらカルトの信者のやうに崇拝する学生さながら宝塚のファンクラブのやうに附き纏つて去らぬ卒業生を数多く持つた教師も私はかつて知りません

あなたの学問や人柄がそれほど判り易かつたとは思へませんがあなたの学問に向かふ姿勢が人間の突きつめた生きざまの一つとして彼女らの感じやすい心を惹いたのでせうか　ともあれ結果として失意させ挫折させた学生の何倍かの人数を短大の教育としては考へ難いレヴエルに迄あなたは育て高め実らせました

のちほどお訣れの詞を捧げるあなたの一番弟子の田中幹子君**はあなたが遺し残した今年の授業科目の一つを引き継いで貰ふことが昨日の教授会で決まりました　大学院で教へてゐるならともかく短大の教師で自分の授業を引き継ぐことのできる教へ子を五十代半ばで持つなど教師の本懐と云つたら己れの無能を棚に上げて嫉むなとあなたは笑ふでせうか

大学の停年まで未だあと十六年も残してしまつたあなたの生涯は普通に考へれば余りにも短か過ぎますが凡庸な教師の無為の七十年を明らかに

越える内容をあなたは既に生きました
どうか悔いなくお休み下さい

平成七年六月六日

札幌大学女子短期大学部教授
大　森　郁　之　助

（＊昭和五十七年四月に現行国文学科に改称。＊＊昭和五十八年度本学国文学科卒業生。藤女子大・甲南女子大大学院を経て現在日本学術振興会特別研究員、就実女子大・金蘭短大各講師。以上、平成七年十一月十日補記。人には云い替えの利かない思いというものもあって、五ヶ月前に誦んだ文章をそのまゝここに収めることを非礼とは考えていない。）